



コツは必ずしも一段落に一つ作らなくてもよい

説明文のポイント三ヶ条

- 一、頭が動く前に心が動く
感情を大切に（心のエンジンに火をつける）
面白い、なるほど、わからない、やってみたい
→どこからそう思ったのか読み解く
- 二、あたりまえ わかったつもり たまたまやん
筆者の意見・書きぶりもしかしたら違うのでは？という姿勢を持つことが大事
学級全体で乗り越えようとする学習課題
- 三、「なぜ」「ひみつ」「ひけつ」に
「ひけつ」と「ちえ」を補足する
文章を一文要約するため、題名には必ず空白がある→筆者の願い、思いを見つけれれる

クリティカルシンキング（批判的思考）

critical…致命的な、重大なという意味の言葉

- × 筆者の考えを言い負かす
- 筆者の意見・書きぶりから大切なことは何なのか考えること
しかし、子どもからすると筆者は教科書に載った人という権力があり心理的な壁がある。なかなか自分の意見を言えない…
→心のシャッターが開いた学習活動・環境が必要！
本時の一言目「笑顔に向けてくれてありがとう」
筆者と先生の文章を比べる学習活動

「なぜ (why) 発問」

「なぜ (Why)」と問うと
「それは～だから (Because)」と答えないといけない
筆者にしか答えはわからない。当事者じゃない私たちは答えられない。「筆者が正解」が前提になる。
今回の授業は「どっちがいい？ (which)」
→選択肢があると誰もが答えやすく、考えの形成がしやすい
筆者と先生の違いは？と聞くとより考えやすかった

教師≠レフェリー

教師の権力を下げる

- コントロール — 思考をしやすい環境を整える
魅力を高めるためにコントロールする
- マネジメント — 理想を求めるためにコントロールする
ともに作り上げていく、調整

聞きあうために何をデザインするか

子どもが自分で考える方法を選ぶ（自己調整）

- ・タブレット or ワークシート
 - ・個の時間
 - 一人で考える
 - 近くの人と考える
 - 〇〇さんと考える
- 学習環境を整える。
教師はリーダーではなく、バランスラー
学びのコントローラーを子どもたちにゆだねる！